

感染症定期報告感染症別文献一覧表(医療機器 2019/10/1~2020/3/31)

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	E型肝炎	IDWR. 21:22(2019)2-3	2019年6月5日集計分の感染症発生動向総覧によると、本邦において2019年第22週に診断されたE型肝炎報告例は以下のとおりであった。感染地域(感染源):北海道4例(豚レバー2例、不明2例)、群馬県2例(不明2例)、東京都2例(豚レバー/馬刺し1例、焼肉1例)、兵庫県1例(不明)、鹿児島県1例(不明)、国内(都道府県不明)2例(不明2例)、韓国1例(牛レバー)、パキスタン1例(不明)。また、2018年第22週から2019年第21週までに診断されたものの報告が遅れたE型肝炎報告例は以下のとおりであった。感染地域(感染源):東京都1例(豚肉)、神奈川県1例(鹿肉)、国内または国外不明4例(不明4例)。
2	E型肝炎	IDWR. 21:37(2019)2-2	2019年9月18日集計分の感染症発生動向総覧によると、本邦において2019年第37週に診断されたE型肝炎の報告例は以下のとおりであった。感染地域(感染源):北海道2例(豚肉1例、鶏レバー1例)、茨城県1例(不明)、埼玉県1例(豚肉/牛肉)、東京都1例(不明)、新潟県1例(不明)、国内(都道府県不明)1例(不明)。
3	E型肝炎	Mem Inst Oswaldo Cruz. 114(2019)e180585	ブラジル北東部の農場から、ブタの糞試料119サンプルを採取しRT-PCRを行った結果、2サンプルがE型肝炎ウイルス(HEV) RNA陽性であった。当該サンプルは、ジェノタイプ 3cに属するHEV配列に近似しており、遺伝子学的にヒトで分離されたサブタイプ 3fと関連していた。HEVの異種間感染により遺伝子流動が起きていることが示され、ウイルス拡散におけるブタの宿主としての重要性が示唆された。
4	インフルエンザ	CDC ホームページ. <a href="https://www.cdc.gov/flu/outbreak-investigations.html">https://www.cdc.gov/flu/outbreak-investigations.html</a>	2012年7月~9月、米国10州におけるインフルエンザA(H3N2)変異型ウイルス(IVA(H3N2)v)のアウトブレイクにより、ブタを展示した農産物品評会の出席者において、309例の感染が報告された。2016年8月、米国ミシガン州の農産物品評会においてブタを展示した小児1例で確認されたIVA(H3N2)v感染も、米国疾病予防管理センター(CDC)の疫学調査につながった。
5	インフルエンザ	ProMED-mail 20190728.6592926	米国のミシガン州農業農村開発局は、Fowlervilleのファミリーフェアで、ブタインフルエンザ検査陽性を示したブタを複数特定した。感染した全てのブタは会場から搬出され、ヒトの感染例は報告されていない。
6	H1N1インフルエンザ	AASV. <a href="https://www.aasv.org/news/story.php?id=12050">https://www.aasv.org/news/story.php?id=12050</a>	2018年、フランスの農場で、獣医1例が、呼吸器症候群を示す雌豚から綿棒で検体を採取した直後に発病した。疫学的データと遺伝学的分析によりヒトからブタ及びブタからヒトへのインフルエンザA(H1N1)pdm09ウイルス(pH1N1)の連続した感染が明らかになった。
7	H1N1インフルエンザ	Emerg Infect Dis. 25(2019)1940-1943	フランスにおけるpH1N1のヒト及びブタ間の双方向伝播に関する報告。インフルエンザ様疾患(ILI)を呈したブタに接触した獣医師及び検査助手が、その後ILIを呈した。ブタの鼻腔から採取されたサンプルより、ブタはインフルエンザA型(H1N1)pdm09と診断された。ブタ及び獣医師から採取したサンプルのウィルスゲノムが一致したため、ブタからヒトへのpH1N1伝播が結論付けられた。また、ブタはILIを呈する数日前に、ILIを呈する養豚場の従業員と接触しており、当該従業員からブタへのpH1N1の伝播が疑われた。
8	H1N1インフルエンザ	The Pig Site. <a href="https://thepigsite.com/news/2019/10/seasonal-flu-strikes-canadian-pig-herd-early-this-year">https://thepigsite.com/news/2019/10/seasonal-flu-strikes-canadian-pig-herd-early-this-year</a>	Western獣医学大学の獣医病理学者は、2019年の季節性インフルエンザが例年より早くブタに感染し始めていることを報告した。
9	日本脳炎B型	The Pig Site. <a href="https://thepigsite.com/news/2019/07/japanese-encephalitis-confirmed-in-sabah-malaysia">https://thepigsite.com/news/2019/07/japanese-encephalitis-confirmed-in-sabah-malaysia</a>	マレーシア サバ州の養豚場で日本脳炎ウイルスが検出された。マレーシア獣医局は感染が確認された農場の近くにある7つ全ての養豚場で視察及び検査を始めた。ヒトへの感染は確認されていない。
10	口内炎	ProMED-mail 20190801.6600946	米国オクラホマ州でウマ1頭、コロラド州でウマ数頭及びウシ1頭において水疱性口内炎ウイルスへの感染が確認された。1990年代以降、オクラホマ州でははじめての報告例となる。
11	口内炎	ProMED-mail 20190806.6608720	米国における2019年の水疱性口内炎ウイルスのアウトブレイクは、2019年6月21日にテキサス州ではじまり、その後、ニューメキシコ州、コロラド州、ワイオミング州、オクラホマ州が続いている。影響を受けた施設として512件が特定されており、うち510施設ではウマのみ、2施設ではウシが影響を受けている。
12	口内炎	ProMED-mail 20190806.6609173	米国コロラド州14郡で水疱性口内炎が確認され、250頭以上の動物が検疫隔離対象となった。ウシへの感染はBoulder郡で1頭のみ確認されている。
13	口内炎	ProMED-mail 20190817.6627584	米国コロラド州Grand郡でウマ1頭における水疱性口内炎ウイルスの感染が確認された。Grand郡でははじめての報告例となる。コロラド州での感染はBoulder郡で確認されたウシ1頭を除き、全てウマへの感染である。2019年8月2日以降、テキサス州では新たに水疱性口内炎ウイルス感染の確定症例が13頭、疑わしい症例が16頭報告された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
14	口内炎	ProMED-mail 20190824.6638357	2019年8月15日、米国農務省動植物検疫局は、6州(コロラド州、ネブラスカ州、ニューメキシコ州、オクラホマ州、テキサス州、ワイオミング州)で水疱性口内炎ウイルスへの感染が確認されたと述べた。2019年8月21日、ユタ州のウマ及びウシから水疱性口内炎ウイルスが確認された。テキサス州では、2019年8月16日現在、Gonzales郡で1頭が水疱性口内炎ウイルス感染例として隔離されており、Bastrop郡及びGuadalupe郡で感染が疑わしい症例が出ている。コロラド州では、2019年8月21日現在、21郡で感染が確認されている。Delta郡及びBoulder郡で確認されたウシ1頭を除き、全てがウマの症例である。
15	口内炎	ProMED-mail 20190911.6667826	2019年8月30日までに、米国テキサス州では36郡の168施設が水疱性口内炎ウイルスのために検疫隔離され、うち140施設は既に隔離解除となっている。2019年9月5日、米国農務省は、2019年8月29日以降、コロラド州、ネブラスカ州、テキサス州、ワイオミング州で水疱性口内炎ウイルスへの感染が新たに確認された旨を報告した。
16	狂犬病	ProMED-mail 20190409.6413470	ブラジル リオグランデ・ド・スル州の北部でウシの死亡が問題となっている。2019年には、15地域で少なくとも50頭が狂犬病の所見を示し死亡した。検死でコウモリにより伝播する狂犬病が確認され、また、一部の地域で近隣にコウモリが確認されている。ウシからヒトに感染するリスクはかなり低いが、コウモリからヒトへの感染が懸念される。
17	狂犬病	ProMED-mail 20190511.6465671	米国ワイオミング州Larimer郡で若い去勢雄牛1頭に狂犬病が確認された。当該州において、スカンク以外のほ乳類での発症は2019年で本報告がはじめてである。
18	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE Weekly Disease Information. 2019/05/31	2019年5月31日、ブラジル政府はマットグロッソ州でウシ1頭(17歳齢)において非定型牛海綿状脳症(BSE)が確認されたことを報告した。
19	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20190602.6499721	2019年5月31日、ブラジル政府はマットグロッソ州でウシ1頭(17歳齢)において非定型BSEが確認されたことを報告した。
20	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20190603.6500846	2019年5月31日、ブラジル政府はマットグロッソ州でウシ1頭(17歳齢)において非定型BSEが確認されたことを報告した。
21	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE Weekly Disease Information. 2019/07/15	2019年7月10日、スペインのガリシア州でウシ1頭において非定型BSE H型が確認された。
22	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20190717.6572098	2019年7月10日、スペインのガリシア州でウシ1頭において非定型BSE H型が確認された。
23	レンサ球菌感染	Outbreak News Today. <a href="http://outbreaknewstoday.com/thailand-reports-two-dozen-streptococcus-suis-deaths-to-date-82560/">http://outbreaknewstoday.com/thailand-reports-two-dozen-streptococcus-suis-deaths-to-date-82560/</a>	タイにおいて、ブタ連鎖球菌感染の症例が報告された。2019年8月17日現在、23例の死亡を含む265例が報告されている。ブタ連鎖球菌感染は生の豚肉や生血を用いた料理を食べること、適切な保護をすることなくブタと密接に接触することにより発生するとされている。
24	レンサ球菌感染	pig333.com. <a href="https://www.pig333.com/latest_swine_news/high-pig-mortality-streptococcus-equi-new-reports-in-canada-and-us-15527/">https://www.pig333.com/latest_swine_news/high-pig-mortality-streptococcus-equi-new-reports-in-canada-and-us-15527/</a>	2019年、高致死率(約30~50%)の <i>Streptococcus equi</i> ssp <i>zooepidemicus</i> への感染事例が、カナダ西部の飼育場及び4つの商業雌ブタ農場で報告されている。臨床徴候として、昏睡、衰弱、高熱、影響を受けた施設内におけるブタ間での迅速な広がり、及び死亡率の急速な増加が観察された。
25	炭疽	Am J Trop Med Hyg. 99(2018)833-839	2014年から2017年の間にケニアの同じ地域で発生し、ヒト、家畜及び野生生物に影響を与えた3件の炭疽菌アウトブレイクの詳細が述べられている。同地域では1973年から2011年の間にも炭疽菌アウトブレイクが発生していた。当該地域は、炭疽菌胞子の長生きとアウトブレイク発生に関連するリスク要因を調査するのに理想的な炭疽菌のホットスポットであることが示唆された。
26	炭疽	ProMED-mail 20190716.6569704	2019年7月12日、ケニアKisumu郡Mowlemで、感染したウシの肉を喫食した男性に炭疽の所見、腫脹が確認されている。郡の衛生長官は2019年7月14日、Kisumu郡での炭疽アウトブレイクを封じ込めたと述べた。
27	ウシ結核	ProMED-mail 20190511.6464732	米国ウイスコンシン州Dane郡のMaier Farmsにおいて、2018年10月にウイスコンシン州ではじめてのウシ結核が確認されて以来、検疫が続いており動物の移動が制限されている。ウシ結核が確認された群れに対し、2020年まで毎月検査を実施し、疾病の根絶が確定するまで検疫は継続される。検疫解除後5年間は再発がないことを毎年確認する。また、当該農場との接触があったとして、現在ウイスコンシン州の26施設でも動物の移動が制限されている。
28	結核	ProMED-mail 20190702.6547659	2018年初旬以降、ドイツ ニーダーザクセン州の2つの地区の屠殺場労働者間で結核が多く報告されている。2018年~2019年2月28日までに、ブタの屠殺及び加工を行った7例の屠殺場労働者が活動性肺結核と診断され、うち1例は、結核が原因で2018年11月に死亡した。近隣地区でも、2018年初旬以降、活動性肺結核に感染した屠殺場労働者が6例報告された。
29	大腸菌感染	CDC ホームページ. <a href="https://www.cdc.gov/ecoli/2019/o103-04-19/index.html">https://www.cdc.gov/ecoli/2019/o103-04-19/index.html</a>	米国の複数州で発生していた、牛挽肉による腸管出血性大腸菌O103感染のアウトブレイクが収束した。発症した患者が摂取した挽肉の供給元は様々であった。消費者、飲食業に従事する者は食に起因する病気を避けるため安全に挽肉調理を行う必要がある。なお回収されている挽肉の摂取及び供給を行ってはならない。
30	大腸菌感染	CDC ホームページ. <a href="https://www.cdc.gov/media/releases/2019/s0426-ecoli-outbreak.html">https://www.cdc.gov/media/releases/2019/s0426-ecoli-outbreak.html</a>	腸管出血性大腸菌O103の混入のおそれがあるとして、米国において2社が牛挽肉のリコールに着手した。2019年4月23日のアップデート以降、追加で21例の感染が判明した。合計で10州から177例の感染が報告されており、うち21例が入院した。死亡例及び溶血性尿毒症症候群を発現した症例は報告されていない。米国CDCは更なる情報が得られ次第情報提供する。
31	大腸菌感染	ProMED-mail 20190514.6468615	牛挽肉に関連した腸管出血性大腸菌O103の感染者は、2019年5月13日時点で、米国10州から196例報告されている。

ID	感染症(PT)	出典	概要
32	大腸菌感染	ProMED-mail 20190919.6682768	米国ミネソタ州で開催された農場フェアに参加した11例が腸管出血性大腸菌O157に感染した。感染源は調査中だが、家畜との接触、汚染された手すり等への接触による感染が考えられる。
33	サルモネラ症	ProMED-mail 20190723.6583294	フランスにおいて、イタリア産の食肉製品が原因で80例がサルモネラ菌に感染している。感染したのは83例で、うち13例が入院治療を必要としている。
34	サルモネラ症	ProMED-mail 20190908.6663432	米国CDC、複数州の公衆衛生規制当局及び米国食品医薬品局(FDA)は、犬用の豚耳に関連する多剤耐性サルモネラ感染の発生状況を調査している。2019年8月26日時点、感染者は35の州で合計143例と報告されている。
35	サルモネラ症	ProMED-mail 20191025.6746701	カナダ公衆衛生庁は、カナダ食品検査庁及びカナダ保健省と共同で、オンタリオ州とケベック州でのサルモネラ感染症の発生状況を調査している。これまでの調査結果に基づき、Filicettiブランドのソーセージが、発生原因として特定された。この調査は進行中であり、今後他の原因が特定される可能性もある。
36	リステリア症	ProMED-mail 20190912.6670537	致命的なリステリア症の発生がスペインMallorcaで確認された。これまでに感染が確認された200例のうち3例が死亡し、7例が流産した。Sevilleにおいて、3つの肉製品及び食肉加工施設で肉にラードを注入する為に使用される針からリステリアが確認されている。
37	バベシア症	ProMED-mail 20190525.6486731	米国において過去10年間、輸血感染死亡の主な原因となっているのはバベシア症である。米国FDAの報告によると、輸血によるバベシア症の既知の症例200例のうち、95%が14州とColumbia特別区からのものである。これらの州にはNew Englandの全6州が含まれている。
38	ダニ媒介熱	ProMED-mail 20190529.6491782	オーストラリアの特定地域において、5頭のウシがダニ熱のために死亡した。適切な家畜衛生管理が求められた。
39	旋毛虫症	ProMED-mail 20190703.6549582	アルゼンチン サンルイス州の保健当局は、旋毛虫症が3例確認され疫学的警報を発した。症例は、子供1例、彼の父親及び母親で、更に12例が検査中である。感染者は、2019年6月上旬に、La Punillaで購入したソーセージを食べた後発症した。
40	先天性トキソプラズマ症	Braz. J. Vet. Parasitol. Doi: <a href="https://doi.org/10.1590/S1984-29612019036">https://doi.org/10.1590/S1984-29612019036</a>	ブラジル リオグランデ・ド・ノルテ州Mossoroのブタ412頭から採取した血清サンプルのうち、40.7%がトキソプラズマ原虫に対して陽性であった。トキソプラズマ原虫陽性に関連する因子は、性別が雌、半密閉飼育システム、井戸水の使用、駆虫された動物、農場内の猫・山羊・羊・ネズミ・コンドルの存在及び野外に残された死骸の存在であった(p値<0.05)。
41	感染	Acta Trop. 194(2019)165-168	<i>Mycoplasma suis</i> ( <i>M. suis</i> ) 起因のブタヘモプラズマ病は経済的損失でブタ産業に影響する。 <i>M. suis</i> の主な感染経路は血液で、ハエや蚊などの吸血性動物が媒介動物になり得る。自然状況におけるブタの吸血性寄生虫内に存在する <i>M. suis</i> はこれまで研究されていない。ブタで頻繁に見られる寄生虫は吸血シラミ <i>Haematopinus suis</i> ( <i>H. suis</i> )である。16S rRNAを用いてアルゼンチン中部のブエノスアイレス州の飼育ブタ及び野生ブタから採取された合計98匹の <i>H. suis</i> を検査した結果、15個の <i>H. suis</i> サンプルにおいて <i>M. suis</i> DNAが検出された。